



理事長

桑田 真治

ごあいさつ

会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当金庫の業務運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当金庫第112期の決算内容と業務概況をご報告申し上げます。

さて、2023年度の日本経済は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、インバウンド需要の回復や、供給制約の緩和による輸出の増加等、外需が牽引する形で、社会や経済活動の正常化が進みました。

一方、地政学リスクの悪化や歴史的な円安も加わり、原油価格や原材料費が高騰し、相次ぐ商品やサービスの値上げは、企業の設備投資だけでなく、個人消費にも大きな影響を与えることとなり、金融市場では、米国金利の上昇や日本銀行のイールドカーブコントロールの修正、さらに、マイナス金利政策の解除により市場金利が上昇しました。また、日経平均株価はバブル期以来となる最高値を更新し、金融市場が大きく動いた一年となりました。

このような状況下、当金庫では、中小企業のお客様に対し、外部専門家とも連携した課題解決の提案をおこない、ビジネスチャンスを生み出す「岡山県しんきん合同ビジネス交流会」の開催や、独自性・成長性のある企業を対象とした「地域活性化支援制度エリアサポート」による助成、若手経営者の会「おかやまPRODUCE」の運営支援等により、事業価値の向上に努めてまいりました。

また、個人のお客様には、問題点や課題を解決するライフプランの提案、専門スタッフを中心とした資産運用コンサルティング活動の強化、各種セミナー・相談会の開催により、生涯価値の向上をサポートいたしました。

こうした活動の結果、2023年度は、本業業務での収益力を表すコア業務純益は1,192百万円、経常利益は888百万円、当期純利益は589百万円を計上いたしました。また、経営の健全性を示す自己資本比率は、内部留保の増加に努め、自己資本の質を高めたことで11.24%を確保することができました。

当金庫は、昨年度より「共感」をベースとして、お客様との「共創」を目指す、中期経営計画「おかやましんきんResilienceプラン」をスタートさせております。変化が激しく、不確実性が高い現在の環境に適応し、地域とともに成長するため、お客様と当金庫双方の“レジリエンス”を高め、地域の皆さまの事業価値・生涯価値の向上を目指してまいります。

同時に、役職員一人一人の「人間力」を結集し、信用金庫の存在意義である「中小企業専門性」「協同組織性」「地域性」という3つの特性を活かしながら、地域金融機関としての存在を示し、より一層の社会的責任を果たしていく所存でございます。

今後とも格別のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

2024年6月

おかやま信用金庫
理事長 桑田 真治